

すこやか10月号

SANDA CITY HOSPITAL PRESS SUKOYAKA

脳卒中について



脳神経外科 医長
棚田 秀一（たなだ しゅういち）

- 日本脳神経外科学会専門医・指導医
- 日本脳神経血管内治療学会専門医

●脳卒中とは？

脳卒中とは、血管が詰まり脳が壊死する脳梗塞、血管が破れる脳出血、脳動脈瘤などが破裂して起こるクモ膜下出血の3つを合わせた概念で、急に発症する脳の病気です。2021年の我が国の統計で、脳卒中は死因の第4位に位置し、2022年の統計の「介護が必要になる原因」では認知症に次いで第2位に位置し、高齢化社会が進む我が国において脳卒中診療は取り組むべき重要な社会問題の一つです。

●脳梗塞

脳卒中のうち、75%もの割合を占めるのが脳梗塞です。脳梗塞は血管が詰まり、その先の脳が壊死してしまい、麻痺やしびれ、言語障害や認知症など様々な後遺症を残す恐れのある疾患です。予防には生活習慣の改善や生活習慣病の治療などがありますが、ひとたび発症するとすぐに脳細胞が壊死し始めるため、迅速な診断と治療が必要になります。特に、心房細動という不整脈が原因となることが多い心原性脳塞栓症は、心臓にできた大きな血栓が脳の太い血管を閉塞させることがあり、血栓回収療法というカテーテル手術での再開通や点滴による血栓溶解療法が必要な場合があります。

●脳出血

高血圧などにより脳の末梢血管が破綻して脳内に出血するもので、出血周囲の細胞を破壊して脳梗塞と同じように麻痺や言語障害など重い後遺症を残しうる疾患です。脳出血が大きいと命に関わる場合があり、その場合には脳出血を除去する手術を行います。

●クモ膜下出血

脳動脈瘤という血管の分かれ目にできたコブが破裂し出血して、突然の頭痛や意識障害を来す疾患です。社会復帰できる患者さんが約25%しかないという、非常に重篤な病気です。脳動脈瘤を予防的に処置する治療も、クモ膜下出血を発症してからの治療法も開頭手術やカテーテル手術です。

●当院での診療体制

脳神経外科医2名で、常時これらの治療に対応できるような体制を整えています。いずれの疾患も早期診断と治療がカギになります。気になる症状があれば脳神経外科までお気軽にお問い合わせください。



カテーテル治療の風景

がん緩和ケアと医療用麻薬について

緩和医療薬学会

緩和薬物療法認定薬剤師

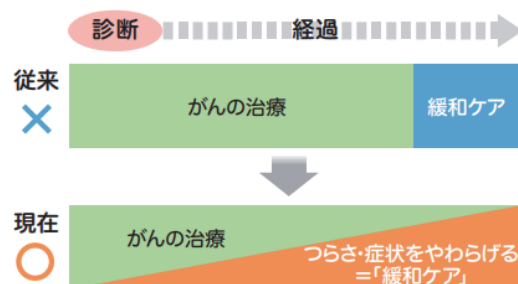
酒井 宏徳

皆さんは「緩和ケア」という言葉にどのようなイメージをお持ちでしょうか。“もう治療ができない最後の手段”や、“モルヒネなど体によくない薬を使う”といった、どちらかというともマイナスのイメージかもしれません。WHO（世界保健機関）による緩和ケアの定義では、「緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOL（生活の質）を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチである」とされています。

緩和ケアは痛みやその他のつらい症状を和らげ、生活の質を高めることで病の経過にも良い影響を及ぼす可能性があり、がんと診断された早期から、化学療法や放射線療法などと組み合わせて適応できるものです（右図）。

当院には、医師・看護師・薬剤師・理学療法士などの多職種からなる「緩和ケアチーム」があり、患者さんの苦痛が少しでも和らぐよう、毎週カンファレンスを行い、対応を検討しています（写真）。その中で、薬剤師は主に薬物療法に関わっており、痛みをはじめとした様々な症状を緩和できる薬剤の検討をしています。

WHO(世界保健機関)の緩和ケアの考え方



緩和医療学会「がんとわかったときからはじまる緩和ケア」より



今回、がんの痛みに対して使用する医療用麻薬についてよくある質問にお答えします。

Q：医療用麻薬とはどのようなお薬でしょうか？

A：医療用麻薬は主に脊髄や脳に作用して痛みを和らげる効果を発揮します。中くらいの痛みから、強い痛みに対して使用されます。代表的なものとして、モルヒネ、ヒドロモルフォン、オキシコドン、フェンタニルがあります。

Q：医療用でも麻薬を使えば麻薬中毒（依存症）になりませんか？

A：適切に使用すれば麻薬中毒になる心配はいりません。これまでの研究で、医療用麻薬ががん患者さんに対し、痛みの治療を目的に適切に使用された場合、麻薬中毒（依存症）になることはほとんどないと報告されています。

Q：医療用麻薬は最後の手段でしょうか？

A：医療用麻薬の使用と病状は必ずしも関係はありません。医療用麻薬は決して最後の手段ではなく、がんと診断されたばかりの早い時期からでも、痛みに応じて開始するのが正しい使い方です。

お薬について心配なことや、困っている症状がありましたら、お気軽に薬剤師にご相談ください



糖尿病委員会より

「世界糖尿病デー」イベント開催 のお知らせ

2025 年 11 月 12 日(水)

参加費

無料

時間

13:30～15:30

場所

三田市民病院 会議室棟 1 階講堂

イベント内容



糖尿病専門医をはじめ、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士が糖尿病の予防や治療について分かりやすくお話しします！

各職種への質問・相談、血糖測定(無料)のお時間も設けています。

ご家族様も一緒に是非ご参加ください。



※当日の写真撮影、ビデオ撮影・録音などはご遠慮ください。

世界糖尿病デーって？

11 月 14 日の世界糖尿病デーは、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために IDF(国際糖尿病連合)と WHO(世界保健機関)が制定し、国連により公式に認定されました。糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民の皆様に周知する重要な機会となっています。

世界糖尿病デーはどうして 11 月 14 日？

世界糖尿病デーである 11 月 14 日は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日であり、糖尿病治療において画期的な発見に敬意を表し、この日を糖尿病デーとしています。

青い丸は何を意味しているの？

世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられます。これは国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインしています。



近隣医療機関のご紹介

市民病院は地域医療連携を推進します。かかりつけ医を持ちましょう！



なかじま脳神経外科クリニック 中島 誠爾 院長

令和元年5月にJR三田駅近くに開業しました。

三田市の皆様をはじめ、たくさんの方々が健やかな生活をおくれますよう、お手伝いさせていただきたいと思っています。末永くよろしくお願いいたします。

「何もないだろう」と思っても、MRIを撮ると脳梗塞や脳腫瘍が見つかった方や、血管狭窄が見つかった方がおられます。素早く治療がスタートできて、よかったと思う体験でした。

「なかじま脳神経外科クリニック」は、頭痛、めまいなどの原因検索や治療を行うことはもちろんとして、それらの症状からくる生活や仕事の不安を少しでも和らげ、明るく楽しく生活して頂けるお手伝いをするを目標にしています。

「来て良かった」、「また困った時には相談に来よう」と皆様方から思っていただき、笑顔になってもらえるクリニックを目指します。



〒669-1512 兵庫県三田市高次1丁目2-5

電話：079-565-1015

診療科目：脳神経外科、内科、リハビリテーション科

診療時間：〔午前〕9:00～12:30

〔午後〕15:00～18:00

休診日：日曜・祝日、木・土曜日の午後

ホームページ：https://nakajinou.com/

診療時間：〔午前〕9:00～12:30 〔午後〕15:00～18:00

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	×	○	×

※初診の方は診療終了時間の30分前までにお越しください

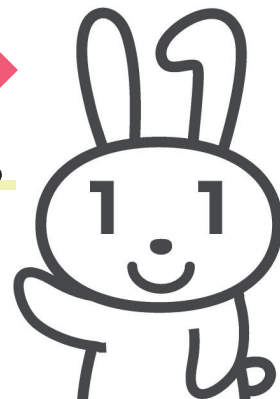
今の健康保険証は、順次、使えなくなります。（有効期限にご注意）



マイナ保険証が資格確認書をご持参ください

＼こんな時に便利！／ マイナ保険証のメリット

- ✓ 過去のお薬・診療データに基づく、より良い医療が受けられる
- ✓ 突然の手術・入院でも高額支払いが不要になる
- ✓ 救急現場で、救急搬送中の適切な応急処置や病院の選定、搬送先の病院で活用される



編集後記

秋の空気を感じ、朝晩は涼しくなってきましたが、引き続き暑が続いています。まだまだ、熱中症や脱水の予防に気を付けながら、お過ごしください。

すこやか(第237号)
令和7年10月発行

【編集・発行】
三田市民病院
学術広報推進委員会



三田市民病院

〒669-1321 三田市けやき台3丁目1番地1
TEL.079-565-8000 (代表)
https://www.hospital.sanda.hyogo.jp/